

世界に発信する秋田



〔秋田市観光クチコミ大使〕
シーティーシーアジア 顧問

たけむら
竹村

ゆたか
豊氏

2012年1月、国際教養大学に新設される東アジア調査研究センター（現アジア地域研究連携機構）特任教授として雪の秋田に赴任しました。以来、2019年3月まで7年2か月の間、秋田の様々な分野で活躍されている活力あふれる人々と貴重な出会いをすることができました。その中で、ほんの一部ですが秋田を世界に発信し続けている人々をご紹介します敬意を表したいと思います。

国際教養大学（英語名：Akita International University）は、故中嶋嶺雄学長と当時の秋田の自治体、教育界、経済界、産業界の人々により「グローバルな専門知識を身に付けた実践力のある人材」を育成する目的で2004年に設立されました。それまで日本になかった「授業はすべて英語」で行い、「1年間の海外留学の義務」を課す大学は、私が赴任した2012年には、既に全国的な知名度を獲得し、海外47か国の大学と交換留学協定を結び就職率100%の実績も上げていました。初めて大学キャンパスを訪れてから、徒歩圏内にコンビニ店もない自然の中で、秋田を始め全国から集まった学生と外国人留学生が共に学び、生活できる環境を創った「秋田の大学」の先見性と国際性、これを支える秋田の人々の熱意に大変感激しました。今、大学は海外交換留学の中止や通常の授業ができないなどの未曾有の困難に直面していますが、創立時のように秋田から「それまで日本になかった」新たな大学像を示し、この危機を乗り越えることを心より願っています。

秋田には8世紀に現在の朝鮮半島北部、中国東北部からロシア沿海地方にかけて栄えた渤海国との交流がありました。そして秋田の人々は、今も日本海を隔てた東アジアの隣国との関係を官民共にとても大切にしています。秋田商工会議所はこの地域との長年の交流実績を基に、2014年には延辺朝鮮族自治州、沿海地方、秋田県の三地域（更に昨年より韓国江原道が加わり四地域）からなる他に類をみない民間主導の「経済交流会議」を立ち上げ今年で7回目を迎えます。嘗て秋田港とポシエツト港間にコン

テナ航路を開設し、ロシア極東や延辺州との貿易を実現した秋田の熱い人々がこれまで培った地域間の信頼関係により、ビジネス拡大に繋げることを念願しています。

2015年、モスクワの国際軍楽フェスティバルに招かれた秋田市竿燈会に協賛した国際教養大学、ノースアジア大学の竿燈会学生に私も同行しました。それまで秋田市竿燈会は多くの海外公演を成功させてきましたが、このモスクワ公演は秋田青年会議所（JCI）が中心となり、秋田県・秋田市の協力や支援を受けて準備に3年を費やし実現したと聞きました。熱意が実り「赤の広場」での竿燈公演（写真）は圧巻で感動的なものでした。公演に携わった竿燈会やJCIの皆さんが世界中から集まった官民のチームの中で堂々と活躍されていた姿は日本人として大変誇らしいものでした。今年、先の大戦以来中断することがなかった「秋田竿燈まつり」が中止されましたが、秋田に竿燈会がある限り、伝統文化は受け継がれ、内外に力強く秋田を発信し続けてゆくことに何の疑いもありません。



（撮影：秋田青年会議所）

秋田を離れて1年余、微力ですがこれからも秋田の魅力を発信して参ります。

■ 略歴

- 1952年 神奈川県生まれ
- 1976年 東京外国語大学ロシア語科卒
日綿實業株式会社（現双日株式会社）入社
ソ連2回、南アフリカ、ブラジル、ロシアに通算18年駐在、主に金属資源部門を担当
- 2012-2019年
公立大学法人国際教養大学東アジア調査研究センター（後にアジア地域研究連携機構）特任教授として秋田市在住
- 2019年4月～ 現職